2015年2月19日発行 ■発行責任者／長谷川利彦 ■編集・制作／（株）プロトリオス ■発行／（株）NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200 定価／1部30円

NIPPON GOOD PARTS NGP NEWS 2015 No.287 2月号
全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

今年度補正予算3.5兆円に盛り込まれた中小企業支援策を活用しよう

資金繰りに1583億円、省エネ補助金には930億円が含まれている

個人消費の喚起や地方経済の活性化に重点を置いた2014年度の補正予算案が、1月26日通常国会で審議され2月上旬には成立する見込みです。予算規模は総額3兆1180億円で、政府はこれによって昨年4月の消費増税後の買い控えや大幅な円安、輸入品の高騰による国内景気の落ち込みの回復を目指すとしています。これによって実質国内総生産（GDP）を0.7%押し上げる効果を予定しています。

今回の補正予算の眼目は、かねてから安倍政権が前面に押し出している「経済成長と財政再建」の実現です。そのためにアベノミクスの効果を地方にまで届けたいという意思を色濃く反映した格好です。

主な事業内容は、生活者・中小企業支援に1.2兆円、地方活性化6000億円、そして災害復旧・復興加速1.7兆円となっています。財源は、従来のような国債発行に頼ることなく、税収の増加分と前年度の余剰金を充てることで、少なくとも国の借金をさらに膨らませずに済みそうです。

さて注目すべきは、中小企業支援の中に盛り込まれている「中小企業などの資金繰り支援1583億円」と「中小企業の省エネ設備の導入費補助930億円」に、強く関心を持ってもらいたいところです。

詳細については、国会通過後に担当官庁である経済産業省での細目決定を待たざるを得ませんが、自動車整備・修理事業に関わる事業者は、この補助金に強い興味を示してもらいたいものです。

人であれ生活物資であれ移動の手段として、公共交通機関が不足している地方社会生活においてはクルマが唯一のものとなります。過疎地になるほどクルマ社会の存在意義があるのです。したがって全国津々浦々に自動車整備工場は欠かせない存在となります。

現在、認証工場は全国で9万余り存在します。過去、自動車保有台数の伸びに支えられて拡大してきた市場でした。しかしここへきて少子高齢化が顕著となり保有台数も現状の8,000万台超から下り坂に向かうのは間違いないところです。

すでに整備事業者においては仕事量の減少、過当競争による受注価格の下落、若年労働者の逼迫、後継者難など経営環境マイナス現象から今後、事業者場の減少化が避けられない状況に追い込まれています。

それゆえに今回の補助金は「アベノミクスの恩恵を地方でも実感してもらいたい」という政府の強い意志が働いています。それだけに、資金繰り支援の補助金についてはいち早く自治体の経済局など窓口に相談してみると良いでしょう。少なくとも、具体的な支援内容がが把握できることで、必要な対処策も見えてくるはずです。

もうひとつは省エネ補助金です。これは既存の設備に比べて省エネ効果が1%以上あれば補助金で賄うことが出来るという制度であるらしいのです。「らしい」と表現したのは、細目については国会通過後に担当の資源エネルギー庁から発表となり、これを待つ他ないためです。

自動車整備・修理業界で省エネ効果が大きいと見込まれる設備機器となりますと、まずは必須の動力源となるコンプレッサーが挙げられます。次いで整備事業者なら門型洗車装置、鈑金塗装工場ならば乾燥装置が大量エネルギー消費の設備と言えるでしょう。

いずれも現行製品の省エネ性能は格段に進歩しており、この機会を入替機会として捉え検討することも必要かもしれません。省エネ機器へ転換することの効果は、工場ごとの差異があると思われますが、取引先の機械工具販売店、あるいはオートサプライヤーから知恵を出してもらうことも有効な手段となります。

水の使用量が従来より大幅に削減された最新の門型洗車機も省エネ効果が大きい設備のひとつ

東京オートサロン2015 with NAPAC、出展車両・ブース総数・来場者数のいずれも過去最高をさらに更新

カスタマイズの世界に“品質”追求の傾向が顕著に

毎年１月に開催されるカスタムカーと関連製品の展示会「東京オートサロン2015 with NAPAC」が１月９～１１日の３日間、幕張メッセ（千葉市美浜区）で開催されました。

今回は国際展示場１～１１の全ホールとイベントホールに加え、屋外展示場と国際会議場も使用され、１社あたりのスペースが拡大する傾向にあったため、出展者数は前回より14社少ない414社となりました。しかしブース総数は283小間多い4,163小間、出展車両は39台多い879台、そして３日間の来場者数は30万9,649人と、４年連続最高記録を更新し、カーアフターマーケットにおけるカスタマイズ分野が景気回復と共に再び活況を見せ始めていることを伺わせました。

まず、同展示会において年々存在感を増し続けている自動車メーカーですが、昨年メルセデス・ベンツが初出展したのに続き、今年はアウディとBMWがニューフェイスとして登場しています。１月１日付でフィアットクライスラージャパンからFCAジャパンへと社名変更した同社は、エンツォ・フェラーリや新幹線E6系で知られる工業デザイナー・奥山清行氏率いるケンオクヤマデザインとアルファロメオをコラボレートさせたブースを展開しました。ルノーやロータスも出展するなど、近年シェアを拡大し続けている輸入車がカスタマイズの世界でも存在感を増しつつあるのが見て取れました。

国産乗用車メーカーは昨年に続き全８社が揃って出展しました。正式発表直前のモデルを先行展示する場として活用するメーカーが多く、広大なブースを埋め尽くすほどの来場者が食い入るように見つめ写真に収めていました。

部品・用品関連では、タイヤ・ホイールの輸入販売を手掛けるオートウェイが初出展しています。同社が主力とするATRラジアル（インドネシア）、アドヴァンティレーシング（シンガポール）、ハイフライ（中国）、モモ（イタリア）、ナンカン（台湾）、ジーテックス（ドバイ）の６ブランドがオートウェイのブース内でタイヤ・ホイールを展示し、その品質をアピールしています。

その他のタイヤメーカーは各社、ハイグリップモデルを中心としたプレミアムブランドを訴求し、ホイールは鍛造、ヘッドランプ交換バルブはLEDのものを各社ともPRの中心に据えています。市販ノーマル車の性能や質感、ドレスアップ性が急速に高まっている中、ほぼ犠牲なしでそれらを上回るものを提供しようという、各社の生き残りにかける強い意気込みが感じられました。

オートサロンを卒業作品の発表と入学者募集のPRの場として活用する自動車大学校・短期大学・専門学校からは、計９校が参加しました。入学者数の激減が業界全体で大きな話題となっている中、出品される車両の完成度はますます高まっており、作品を手掛けた学生が丁寧に来場者へ説明し、それを熱心に見聞きする来場者の姿が各ブースで見られました。

トヨタ
１月26日発売の新型アルファード／ヴェルファイアをベースにした「スタイルLBコンセプト」などを出品

ホンダ
２月13日発売のミニバン・ジェイドをモデューロと無限（写真）がカスタマイズ

ダイハツ
サードパーティとのコラボモデル７台とともに、年央発売予定のコペン「第３のモデル」を参考出品

マツダ
２月下旬発売予定の小型SUV・CX-3、６月発売予定の４代目ロードスターを先行展示

メルセデス・ベンツ
Bクラスのマイナーチェンジ車を発表するとともにAMG仕様のカスタマイズ車など計14台を披露

BMW
同ブランド初のFFミニバン・２シリーズアクティブツアラー（左）、PHVスーパースポーツのi8（右）などを展示

アウディ
内外装をオレンジで彩った100台限定車、A1スポーツバック・カラーセレクション・サモアオレンジを出品

アルファロメオ×ケンオクヤマ
ジュリエッタをベースにしたコラボモデル、ケンオクヤマ・スペチアーレなどを展示

「自動車整備人材確保・育成推進協議会」第３回会合を開催

女性整備士の実態調査も実施へ

自動車整備に携わる人材の確保、育成を目的に、国土交通省と自動車関係14団体が設立した「自動車整備人材確保・育成推進協議会」は12月19日、同会第３回会合を開催しました。

2014年６・７月に全国の高校を訪問した際に得られた意見・要望が報告され、その中では、若者の自動車および整備に対する興味の低下、整備士養成校の高額な学費、高校に対する整備士求人の不足および就職後に資格取得できる二種養成施設の認知度不足、給与・労働環境・キャリアコースへの不安、動画媒体を用いた小中学生に対するPR活動やインターンシップの機会不足、などが指摘されています。

女性整備士に対する意見募集については、整備士になった動機、主な業務、整備士になって良かったこと・苦労している点、男性より向いている作業、職場環境・設備の改善すべきポイントなどについてヒアリングされます。なお、この意見募集では同僚の男性整備士からも、女性整備士に対するイメージなどについて聞き取り調査します。

今後はこれら意見・要望に関する実態調査を行うとともに、その結果を2015年４月末から７月に再度実施する高校訪問の際に資料として活用する計画です。

また、各運輸支局と自動車関係団体の地方組織、整備士養成施設が同協議会と情報共有・意見交換するための「自動車整備人材確保・育成地方連絡会」を、2015年２月頃より各地で設立することを決定しました。

第４回会合は３月に実施され、その結果を踏まえ2015年度の活動内容が決定される予定です。

リサイクル部品の保証書及び検査証を全面改訂 ３月中旬より運用開始

経済産業省規格化研究会の中間総括を踏まえ カーオーナーへの情報提供を向上

機能部品に対し保証書と共に添付される検査証。上はエンジン用のもの

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（長谷川利彦理事長）は３月中旬より、NGPリサイクル部品が発行する保証書の全面改訂を実施し、ご利用いただくカーオーナー向けの内容に改良いたします。

これは、経済産業省・自動車補修用リサイクル部品の規格策定に関する研究会が昨年８月に公表しました「自動車補修用リユース部品、リビルト部品の規格策定に関する中間報告」が、国内流通における情報提供の現状について、業界全体の課題としたことを受けてのものです。

従来は整備・修理工場様への保証書の発行は、NGPリサイクル部品販売組合員が保証書を発行していましたが、部品生産組合員がNGPリサイクル部品を発送する際に、NGPパーツシステムより保証書を出力し、部品に添付する仕組みに変更します。

保証書の発行は、エンジン、トランスミッション、ターボチャージャー、エアコンコンプレッサー、ベーンポンプ、スターター、オルタネーター、噴射ポンプ、スロットルボディ、キャブレターの機能部品10品目で、保証書と同時に走行距離や品質チェックの結果を記載する検査証も同時発行することとします。

一般的に、多くの供給事業者では商品化に際して車両の状態の確認、部品の検査などを行い、その結果を記録・データ管理として保持しています。

しかし、供給事業者側がリユース部品の販売に際し、車両の走行距離、部品の外観情報（傷、凹み等）、の品質に関する情報は伝えられるものの、部品取りをおこなった車両情報・検査結果などについては供給事業者側のみのデータ管理に留まっている場合も多く、供給事業者側と利用者側（自動車整備事業者等）との間では情報格差が生じる結果となっています。

また、供給事業者側からリユース部品、リビルト部品の販売業者（地域部品商、ディーラー、整備事業者）に情報が伝えられた場合でも、販売業者からカーオーナーに対しては、価格、納期、保証内容に関する情報は伝えられるものの、品質に関わる検査結果などに関する情報は十分に伝えられていません。

NGP協同組合では、保証書及び検査証の発行に関するルール変更により、自動車整備・修理工場の皆様が、カーオーナーに対しても保証書及び検査証を提示できる仕様としています。これにより、カーオーナーがより安心してリサイクル部品をご利用いただきリサイクル部品の利用促進に繋がることを期待しています。

NGP 今月のCO_2削減量

リサイクル部品利用に伴う削減効果

平成26年12月：**3,905t**

※一般社団法人 日本自動車工業会が1998年に公開している自動車LCA（ライフサイクルアセスメント）データをベースに、NGPにて1500cc車両の部品重量調査結果からCO_2削減効果参考値を算出しております。

リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

平成26年12月：**17.6t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO_2排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員かわら版

大石一彦名誉顧問を訪問
今期の重点活動方針を報告

長谷川利彦理事長は、1月20日、大分県別府市の大石一彦名誉顧問を訪ねて、新年のご挨拶とともに協同組合の現状や昨年10月の総会で決定した今期活動方針について報告しました。今回の訪問は大橋岳彦会長、山田彰・中村昌徳・小林信夫副理事長、玉木基裕専務理事ら幹部も同行しています。大石名誉顧問は長らくご自宅で療養を続けていますが、近頃は健やかにお過ごしのようです。

大石名誉顧問はNGPオンラインシステム構築に尽力する中、病に倒れました。しかしながら、NGPの原点である三大信条「お客様第一！」「よりよい商品を！ より正確に！ より早く！」「補修部品業界のリーダーたること！」は、青年部会メンバーを中心とする新しい世代の経営者にも、着実に受け継がれています。

NGP協同組合は大石名誉顧問が歩んだ道を改めて胸に刻み、激変が続く事業環境に今後も素早く対応して、お客様満足および品質の向上を、業界No.1団体としての責任を持って継続的に実現していきます。

NGP理事・役員、明治神宮を参拝
500億達成と事故・災害のない1年を祈願

長谷川利彦理事長をはじめとしたNGP協同組合理事と(株)NGP役員は1月22日、明治神宮（東京都渋谷区）に参拝し、毎年恒例の新年祈願を行いました。

長谷川理事長は参拝後、「日本経済は全体では好況で、明治神宮への参拝者も例年になく多いように思われます。NGPグループもおかげさまで500億プロジェクトが順調に推移していますので、この勢いで走り抜け、今年1年のいいスタートにしたいと思います。また、昨年は水害などもありましたが、事故や災害の無い一年になりますよう、皆様が安全無事に過ごせることをお祈りしました」と話しています。

第10回NGP青年部会開催
500億達成のけん引的役割に期待

NGP青年部会の第10回会合が1月17日、東京都港区のNGP本部で開催されました。「500億プロジェクト」リーダーの小林信夫副理事長、副リーダーの青木金也理事、組織指導委員会の佃正人委員長らも出席し、各チームの活動の進捗報告と今後の活動方針について活発な意見交換をおこないました。

会合の冒頭で小林副理事長は「年間部品販売金額500億円は“やりたい数字”ではなく“やらなければならない数字”です。かつて青年部会の清水道悦副部会長が率いる(株)ユーパーツを訪問した際、朝礼で売上目標を高らかに唱和していましたが、そうした明確なビジョンを掲げ着々と目標に取り組んだ結果、現在はその目標をはるかに超える実績をコンスタントにあげています。ビジョンなき組合員に檄を飛ばす、そんな役割を果たすことを、青年部会に期待しています」と激励しました。

その後、具体的な販売強化策について、取引実績の少ない整備・修理工場の訪問、カーオーナーに向けたチラシの配布・キャンペーンの展開といった取り組み事例が紹介され、部品取り車両仕入れだけではなくNGPリサイクル部品を販売するための営業活動を行うことの重要性を再認識しました。

今後の活動としては、昨年実施した「電話応対コンテスト」の支部代表者の動画をまとめたDVDを全組合員へ展開するほか、全参加者の動画を期間限定で閲覧可能にすること、また今後は「ecoユニットNGP」活動の一環として、青年部会開催時に毎回、NGP本部近隣の清掃活動を実施することを決定しています。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
南関東	有限会社アンドーカーパーツ (変更後は株式会社アンドーカーパーツ)	組織変更・移転	株式会社アンドーカーパーツ 〒413-0713　静岡県下田市加増野10-2 TEL 0558-28-0939　FAX 0558-28-0880	27年 1月5日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局
〒108-0074　東京都港区高輪3丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1208　FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP
〒108-0074　東京都港区高輪3丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1200　FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/